

## 1 インフルエンザと合併症

患者さんの咳やくしゃみにより空気中に浮かび、手についたインフルエンザウィルスが、気道に感染します。感染して1～5日すると、だるくなり、急な発熱、のどの痛み、咳、くしゃみなどの症状が出始めますが、普通は約1週間で治ります。しかし、お年寄り、赤ちゃん、免疫力の低下している人、大人でも体力の弱っている人などが感染した場合は、重篤な経過(肺炎、死亡など)をたどることがあり、注意が必要です。

## 2 ワクチンの効果と副反応

ワクチンの効果について以前から論議されてきましたが、ワクチン接種を受けていれば、インフルエンザに感染しても症状が軽くすみます。また、重症化して入院することを防ぐ効果が期待されます。

ワクチン接種に伴う副反応として、発熱や注射部位が赤く腫れたり、硬くなったりすることがあります。発現頻度は発熱が100人に数人位、赤く腫れたりするのは10人に1人位です。ごくまれですが、次のような副反応を起こすこともあります。(1)ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫など)、(2)急性散在性脳脊髄炎(接種後数日～2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)、(3)脳炎、脳症、脊髄炎、視神経炎、(4)ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、(5)けいれん(熱性けいれんを含む)、(6)肝機能障害、黄疸、(7)喘息発作、(8)血小板減少性紫斑病、血小板減少、(9)血管炎(アレルギー性紫斑病、アレルギー性肉芽腫性血管炎、白血球破碎血管炎など)、(10)間質性肺炎、(11)皮膚粘膜眼症候群(スティーブンス・ジョンソン症候群)、(12)ネフローゼ症候群

## 3 予防接種を受けることができない人

- 1) 明らかに発熱している人(通常は37.5℃を超える場合)
- 2) 重い急性疾患にかかっている人
- 3) 予防接種に含まれる成分によって、接種後30分以内にひどいアレルギー反応(アナフィラキシー)を起こしたことがある人
- 4) 以前に予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを思わせる異常がみられた人
- 5) 予防接種を行うことが不適当な状態にある人

## 4 次の方は接種前に医師にご相談ください

- 1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患および血液疾患などの基礎疾患のある方
- 2) 薬の投与または食事(にわたりの肉や卵など)で発疹が出るなど異常をきたしたことがある方
- 3) 過去にけいれん(ひきつけ)の既往歴のある方
- 4) 過去にインフルエンザの予防接種を受けた時、2日以内に発熱、全身性の発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- 5) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは、近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- 6) 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患を有する方

## 5 接種後は以下の点に注意してください

- 1) 接種後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- 2) インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- 3) 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- 4) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、接種後は接種部位を清潔に保ち、接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 5) 接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。